

巻頭言

医学部の教育・研究の現状とこれから

医学部長
矢野 貴人



2025(令和7)年6月14日をもって医学部長に就任いたしました。2021(令和3)年の大学統合以来、内山和久先生に次いで二代目の医学部長となります。大阪医科薬科大学医学部における教育・研究を、本学の良き伝統を守りながらも、時代に即したものに適応・進化させ続けることが医学部長の使命であり、その責任を感じています。この機会をお借りして、医師会会員の皆さまに、本学医学部の現状や今後の取り組み等についていくつかご紹介させていただきます。

近年の少子化の中にあって、昨年度の本学医学部の入試総志願者数は過去最高の3,655名でした。従来からの一般選抜も重要ですが、多様な入試選抜を推奨する社会からの要請や昨今の受験生にみられる年内入試(12月に合格発表)への志向などに応えるべく、本学でも指定校制推薦入試を3年前、公募制推薦入試を2年前から実施しています。指定校制(本年度定員6名)と公募制(定員10名)のいずれも現役生対象の専願制であり、本学医学部を第一志望とする入学者を早い時期に獲得することができるようになりました。また、本年度実施入試から、医師少数県における医療の充実に貢献できる医師の養成を目的に、指定校制に「地域指定・専願制」(定員1名)を新設しました。今後も時代に即した入試制度を模索し続けるとともに、本学医学部にとってより良い入試制度を築き上げてまいります。

大学病院と同様、大学・医学部も定期的に外部評価を受審し、評価機関からの認定を受ける必要があります。多くの医学部から“評価疲れ”の声も聞かれています。認定を受けないわけにもありません。本学医学部は2025年度、日本医学教育評価機構(JACME)による2巡目の「医学教育分野別評価」を受審しました。無事に認定の通知が届きましたが、多くの改善すべき点も指摘されました。基礎医学教育について「科目の水平統合教育の実質化」「基礎医学と臨床医学との垂直統合教育の充実」などが挙げられていますが、臨床実習についても「診療参加型臨床実習の充実」「すべての主要な診療科で1診療科あたり連続3週間以上の確保」「学生が早期から患者と接触する機会の充実」などが求められています。これらの指摘に応えるべく、新しいカリキュラムの策定に医

学教育センターを中心に現在取り組んでいます。今回の外部評価を好機と捉えて、指摘事項をクリアするにとどまらない本学医学部ならではのカリキュラムの作成を目指してまいります。特に臨床実習については、診療科の先生方をはじめ大学病院に関わる多くの方々にご協力をいただかなくてはなりません。本学医学部の臨床教育充実のために、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

特定機能病院としての大学病院にとって、また大学・大学病院のブランド向上のためにも研究活動の重要性は申し上げるまでもありません。今後、大学医学部と大学病院における研究をより進展させるためにも、医師の研究時間の確保が不可欠です。医学部長就任までの10年間、私は医学研究科大学院委員会委員長を務めてまいりました。そのときに痛感したのが、臨床系の大学院生の研究時間を確保することの困難さであります。医師の働き方改革の導入により状況は一層厳しくなっており、現状、個々の医局・医師の努力に頼らざるを得ない状況であります。大学医学部としてサポートできることがあれば、ご意見をお聞かせください。

最後になりましたが、本医師会の益々のご発展とともに会員先生方のご健勝を祈念し、巻頭言といたします。

